Web 交流会「地域の観光資源を発掘する」開催内容

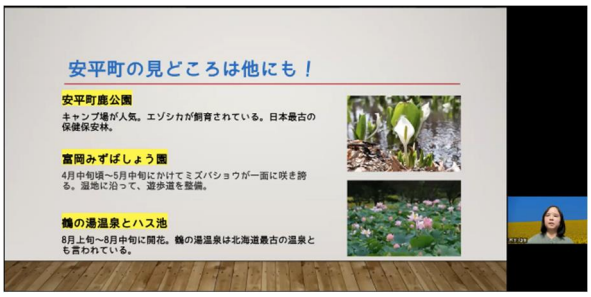
1．日時：令和 5 年 12 月 8 日（金）　16：00～17：30
2．場所：オンライン（Zoom）
3．登壇者：

役割	所属	役職	氏名（敬称略）
パネリスト	フリーランス	元・安平町地域おこし協力隊	木下　知佳
パネリスト	八雲町	地域おこし協力隊	藤谷　周平
パネリスト	白老町	地域おこし協力隊	山岸　奈津子
パネリスト	公益社団法人 北海道観光振興機構	エグゼクティブマネジャー	佐藤　尚弘
ファシリテーター	公益財団法人 はまなす財団	主任	大関　太一

4．交流会の様子

ア　元・安平町地域おこし協力隊 木下　知佳　氏

- 2020 年に安平町地域おこし協力隊として採用され、移住しました。任期中に個人事業主として開業し、2023 年 4 月に地域おこし協力隊を卒業しました。現在はフリーランスとして、安平町から広報誌制作の業務や、あびら観光協会から SNS 運営業務、町内飲食店などからデザイン業務などを受託しています。
- 地域おこし協力隊の任期中は、シティプロモーション推進員として、シビックプライドを醸成することを目的に、町の SNS 運用、広報誌の制作、観光資源の発掘などを行っていました。観光資源の発掘については、鉄道がプリントされたマンホール蓋を、下水道広報プラットフォームという団体が発行する、マンホールカードとして登録することを提案し、登録されました。マンホールカードは道の駅で配布されており、観光客がそれをもらいに訪れることをきっかけに、お土産の購入や飲食などの消費拡大につながっています。
- 安平町は観光地ではない、という声をよく聞きますが、SNS でミズバショウやハスの花を見られるスポットなどを発信した結果、多くの方が来訪するようになりました。そのため、きちんと情報発信をすることが重要だと考えて



います。

- これからも、安平町はいいところなので遊びに来てね、と町民の方が自信を持って言えるきっかけづくりをしていきたいと思います。
- 2020 年に安平町に着任し、新型コロナの影響を受ける時期と任期が重複してしまいました。そのため、山岸さんにように、町民の方とお話しする機会が豊富にあるのは羨ましいと思いました。

イ　八雲町地域おこし協力隊　藤谷　周平　氏

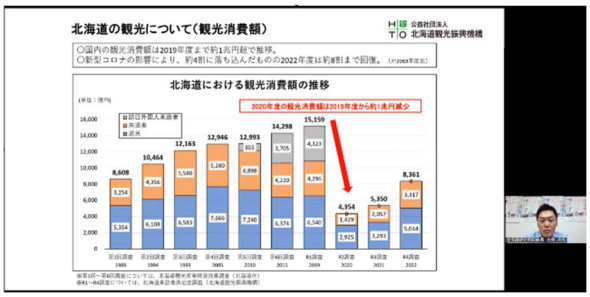
- 2021 年に八雲町に移住し、地域おこし協力隊として、観光を入口に関係人口を拡大する取組をしています。地域おこし協力隊の活動は、廃校の活用や、ワーケーション事業、道南地域おこし協力隊ネットワーク事業などを行っています。
- 廃校の活用事業では、廃校をリノベーションした、「ペコレラ学舎」という施設の運営をしています。ここは、キャンプ、コワーキング、音楽やマルシェなどのイベント、合宿の受入れ、研修の受入れなどの機能を有しています。ここの特徴は、立ち上げの時から全国からボランティアを募って、みんなで薪小屋や看板、サウナ小屋などを DIY で作り上げた点です。単に施設を DIY で作ることでなく、共同作業をきっかけに、関係人口を拡大することに重きを置いています。サウナ小屋は、今日のパネリストの佐藤さんが所属している、北海道観光振興機構の事業を活用してつくりました。
- ワーケーション事業では、農業、水産業、酪農などの体験に、仕事の要素を加えたコンテンツづくりをしています。特徴は、リピーターが多い点です。夏にワーケーションで滞在し、冬にもまた滞在するという方もいました。今年度は、ターゲットをインバウンド観光客に拡大し、10 月にモニターツアーを開催し、参加者からは大変好評でした。来年は、他の自治体との広域連携もする予定です。この事業も、関係人口につながることを意識して実施しています。
- 道南地域おこし協力隊ネットワーク事業では、道南の地域おこし協力隊をつなぐコミュニティの運営をしています。この事業の目的は、協力隊と行政、地域の方の三者をつなぐことです。この事業では、地域の産品をおむすびに入れて PR する、「おむすびプロジェクト」や、オンライン交流会の開催、振興局と共催での研修会、情報発信などを行っています。現在は、これらの活動を通して、協力隊と関わりたい人との窓口になっています。
- 自分自身が、地域のコーディネーターとして動いている中で、バランス感覚

を持つのが難しいと思っていました。山岸さんの意識している、住民の方と目的を合わせる、目線を合わせることなどについて、参考にしたいと思います。

ウ　白老町地域おこし協力隊 山岸　奈津子　氏

- これまで、星野リゾートの広報、フリーランスの広報として活動し、現在は白老町の地域おこし協力隊として活動しています。フリーランスの活動としては、札幌国際芸術祭や NoMaps の広報などを行っています。
- 地域おこし協力隊の業務内容は、文化芸術振興です。卒業後の独立を見据え、文化芸術振興と稼ぐ仕組づくり、地域の雇用創出を目指しています。そのために、「可能性を広げる舟を出す」という方針のもと、一般社団法人 SHIRAOI PROJECTS（以下、「SHIPS」という。）を立ち上げました。
- SHIPS では、地域の資源を有効活用し、ウポポイから人の流れを作って地域の収入を上げることを目的に、「シン・白老港」という白老港魅力化プロジェクトを行っています。具体的には、漁港、港を活用したコンテンツ創出のトライアルと発信を行っています。これからは、遊漁船予約プラットフォームの構築や、遊漁船を活用したサービス開発、有料釣り場の設置などを展開していきたいと検討しています。
- 地域の観光資源を発掘するためには、地域の資源を見つけることと、差別化することが重要だと考えています。地域の資源を見つけるためには、まちの魅力を集約した相関図を作る必要があると思います。そのために、住民の方の意見や思いを聞く、「海と港となつこの部屋」という意見交換をする場づくりをしています。
- 佐藤さんのお話されていた、ワインツーリズムの文脈でいうと、空知エリアが熱いと思っています。地質ができたところから、ワインというコンテンツに辿り着き、ストーリーを紡いでいるため、大変興味深いです。

エ　公益社団法人北海道観光振興機構エグゼクティブマネジャー 佐藤　尚弘　氏

- 北海道の観光入込客数は、道内客が圧倒的に多く、次に道外客、外国人観光客の順になっています。2020 年から、新型コロナの影響で減少していましたが、2022 年からは回復傾向にあります。観光消費額も同様に、新型コロナの打撃から回復しつつあります。

- 近年では、世界の旅行者の潮流において、持続可能な観光、アドベンチャートラベルへの関心が高くなっており、観光地づくりでも、そのような分野の商品開発の必要性が高まっています。また、世界の国際旅行者数が年々増加しており、外国人観光客への対応、オーバーツーリズムへの対応も必要になります。
- 現在、当機構では、アドベンチャートラベルワールドサミットの開催や、ワーケーションの推進、ワインツーリズムやケアツーリズムなどの高付加価値な旅行商品開発の支援を行っています。具体的には、「地域の魅力を活（い）かした観光地づくり推進事業」として、藤谷さんのお話されていたサウナ施設づくりなどの支援をしています。
- 今後は、持続可能な観光の実現のため、地域内の連携や、地域の誇りの醸成が必要になります。地域おこし協力隊は重要なアクターであるため、しっかりと連携しながら観光地づくりを推進していきます。
- 山岸さんがお話していた、「まちの魅力の相関図」は、大変興味深かったです。各地域でそのような取組ができたら面白いと思います。